

予防理学療法学とは？

日本予防理学療法学会
運営幹事 西川 正一郎

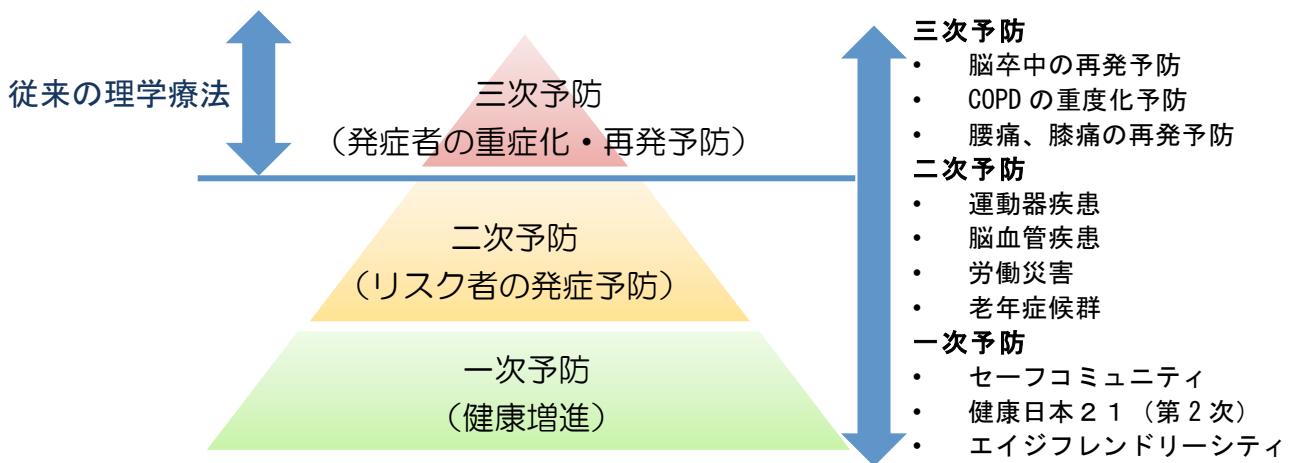
1) 予防理学療法学の定義

日本予防理学療法学会では、予防理学療法学を次のように定義しています。¹⁾

国民がいつまでも「参加」し続けられるために、障がいを引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防・再発予防を含む身体活動について研究する学問

2) さまざまな予防に関わる理学療法学

理学療法学には疾病や障害をもつ人への重度化予防すなわち三次予防を対象領域に含みますが、予防理学療法学はさらに、リスクが高い人の早期発見・早期治療を行い発症予防する二次予防、そして一般の方へ一次予防の適用を拡大させる学問であります。¹⁾



3) ライフステージからみた予防理学療法学

年齢層（ライフステージ）からみた予防理学療法学の領域には、周産期、乳幼児期、小児・学童期、思春期、青年期、中年期、高齢期、終末期までが幅広く含まれます。¹⁾

ライフステージ	予防理学療法学における領域
周産期	産前・産後の生活スタイル
乳幼児期（0～6 歳頃）	食生活や睡眠のリズムづくり、身体活動推進
小児・学童期（7～12 歳頃）	スポーツや学校生活を活用した身体活動量向上や運動器検診。
思春期（13～19 歳頃）	NCDs*への対策。
青年期（20～39 歳頃）	NCDs の一次予防。
中年期（40～64 歳頃）	NCDs の二次・三次予防、老年症候群の一次予防、退職後の地域活動への参加支援。
高齢期（65 歳以上）	老年症候群の二次・三次予防、介護予防リーダーなどささえ手としての地域活動への参加支援。
終末期	心身の衰えの受け入れ。

* Non-communicable Disease(s) (NCDs)：非感染症疾患。不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒などの原因が共通しており、生活習慣の改善により予防可能な疾患の総称。

4) 研究領域と予防理学療法学の関わり

予防理学療法学は横断的な学問であり、それぞれの専門領域における一次予防、二次予防、三次予防について研究の対象となります。今後発展するさまざまな理学療法専門分野においても、予防的な研究は必須と考えられ、これらを横断的に統合して、すべての領域で予防に関わる研究が進んでいます。¹⁾

理学療法学の研究領域	予防理学療法学における領域
基礎理学療法学	予防に関するメカニズムの解明、発生の予測、それらを踏まえた予防法の開発および機器開発
神経理学療法学	脳血管疾患再発予防
運動器理学療法学	足腰の虚弱化や運動器疾患、転倒骨折対策など老年症候群の予防
スポーツ理学療法学	スポーツを手段とした予防
内部障害理学療法学	循環、呼吸、代謝の3領域における虚血性心疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の予防
生活環境支援理学療法学	生活環境支援のための予防的アプローチ、生活環境支援機器開発
物理療法理学療法学	予防的な物理療法
教育管理理学療法学	予防理学療法学の教育、予防理学療法を推進するための制度の立案

5) 疾患や社会的に関わる予防理学療法

予防理学療法はさまざまな領域と関わりがありますが、現在のトピックスとなっている代表的な疾患や社会システムの関わりには以下があり、研究が進められています。

- 介護予防・地域包括ケアシステム
- メタボリックシンドローム
- ロコモティブシンドローム
- 廃用症候群の予防
- 認知症の予防
- 労働災害の予防
- 再発予防（脳卒中、心疾患、呼吸器疾患、整形疾患など）
- スポーツ障害の予防、スポーツを利用した予防
- メンタルヘルス
- ウィメンズヘルス・メンズヘルス
- ヘルスコミュニケーション
- コミュニティ・プロモーションのマネジメント

新しい社会的ニーズに対応するためにも、予防理学療法を媒体として学問体系にまとめていくのが、予防理学療法学会です。ぜひ予防理学療法学会への登録・参加をお待ちしております。